

大会名	第41回全日本壮年大会中央支部予選会兼 第26回日本スポーツマスターズ(男子)中央支部予選会
-----	---

1. 開・閉会式【行わない】

- (1) 開・閉会式には、各チーム員は正規の服装で全員参加すること。
- (2) 各チームは、チーム旗、または協会(連盟)旗を持参すること。
- (3) プラカードを持参すること。但し、大会主催者側で用意する場合は、この限りではない。

2. 試 合

2-1 競技上のルール

試合は、原則として本年度の(公財)日本ソフトボール協会のオフィシャル・ルールに基づき行うものとする。
但し、大会規定により別途定められる事項については、これを優先する。

2-2 途中棄権・無届棄権

- (1) 当大会開催中、途中棄権したチームは、本年度の同種目大会の出場を認めない場合もある。
また、次年度の同種目の登録は認めない場合もある。
- (2) 雨天時を含め、試合当日無届で試合を棄権した場合、出場停止処分等の罰則を受けることがある。

2-3 チーム員

ベンチに入れる人員は、本年度(公財)日本ソフトボール協会に登録されている監督(1名)・コーチ(2名)・スコアラー(1名)・選手(25名以内)とする。(大会要項に準ずる)

2-4 試合開始

試合開始予定時刻前であっても、前の試合終了後 30 分以内に次の試合を開始する。

2-5 打 順 表

- (1) チーム員は、当日第1試合の場合は試合開始予定時刻の30分前までに集合し、打順表を当該球場審判員に提出すること。なお、当日開会式等が行われる場合は、当該球場審判員の指示に従うこと。
- (2) チーム員は、当日第2試合以降の場合は、前の試合の3回終了時または試合開始より30分経過時に集合し、打順表を当該球場審判員に提出すること。
- (3) 連続試合となる場合は、前の試合終了後 すみやかに 打順表を当該球場審判員に提出すること。
- (4) 打順表は、埼玉県ソフトボール協会用を用いるものとする。
また、控え選手を含め、選手全員には「ふりがな」を付けること。
- (5) 打順表に記載のない控え選手は、当該試合に出場することはできない。

2-6 フィールドイング

フィールドイングは、打順表記載のメンバーで後攻チームより5分間行うものとする。
但し、大会運営の都合により、時間の短縮または行わないことがある。

2-7 制限時間

- (1) この大会は制限時間を適用する。
 - ① 本大会(予選会)は試合時間**80分**とする。
 - ② 大会運営の都合上、時間を短縮する場合がある。
- (2) 制限時間を経過した後、新しいイニングに入らない。
- (3) 制限時間を経過した後攻チームが先攻チームより得点が多い場合は、打者が打撃を完了した時点で試合を終了する。
- (4) 制限時間を経過して同点の場合、それ以降のイニングは「タイブレーク」を適用する。
県予選会、県大会関係なく、全種別、全試合(県男子リーグを除く)を通して「タイブレーク」は2回までとし、決着がつかない場合は抽選方式で勝敗を決する。
 - ① 当該審判員立ち会いの下、両チームの選手はホームプレートを挟んで最終打席順に整列する。
 - ② 球審が18枚のカードを扇形に持ち、先攻チームより交互に選ばせる。
 - ③ 抽選カードは開封せず、1.3塁塁審が9名のカードをそれぞれ回収する。
 - ④ 回収後、選手をベンチに戻し両チームの監督(代行)を呼び、相手チームの開封に立ち会わせる。
 - ⑤ O×の結果を確認後、改めて両チーム選手全員(控え含む)を整列させ、勝ちチームを発表し、球審が「ゲーム」をコールする。(注意)O×の数は発表しない。

2-8 得点差コールドゲーム

- (1) 得点差コールドゲームは、(公財)日本ソフトボール協会オフィシャル・ルールに基づき行うものとする。
(3回15点、4回10点、5回以降7点以上の差が生じたとき)
- (2) 得点差コールドゲームは、準決勝、決勝戦にも適用する。

2-9 打ち合わせ

- (1) 攻撃側の打ち合わせは、1イニング中一度限りである。
- (2) 守備側の打ち合わせは、制限時間内で三度までとし、以降（タイブレイク）は1イニング中一度に限り行う。
但し、ルールの適用上の疑義については、監督に限り質することができる。

3. 開始時間・球場の変更

- (1) 雨天の場合でも日程の都合上、開始時間・球場を変更し、試合を行う場合がある。大会本部の指示に従うこと。
- (2) 試合の進行状況およびグラウンドコンディションにより、中止または開始時刻・球場を変更する場合がある。
大会本部の指示に従うこと。

4. 用 具

- (1) この大会は、金属スパイクの使用を不可とする。
- (2) 打者、走者、次打者は、両耳当てのあるヘルメットを着用しなければならない。
捕手もヘルメットは着用しなければならないが、両耳当て付きでなくても良い。
- (3) 1・3塁のベースコーチは、ヘルメットを着用することが望ましい。
尚、生涯種別（埼玉県は適用）及び高校生以下は、着用しなければならない。
（注意1）捕手用ヘルメットはJSA検定マークが入っているものを着用しなければならない。
- (4) 捕手は、ボディプロテクタ、スロートガード付きマスク、および捕手用レガースを両足に着用しなければならない。
（注意2）捕手用マスクはSGマークが入っているものを着用しなければならない。
- (5) 競技用具は、当該球場審判員が確認するが、規格以外の用具および危険と考えられる用具は、当該球場審判員が預かるものとする。預かった用具は、当日の試合終了後に返却する。
- (6) ロジンは、各チームで用意すること。
但し、試合に使用する際は、当該球場審判員に確認を受けなければならない。

5. その他

- (1) 審判員の判断に基づく判定に、抗議は許されない。
但し、ルールの適用上の疑義については、監督に限り質することができる。
- (2) 球場内でのピッチング練習は、危険防止のため、外野方向に向かって行うこと。
なお、競技場内のいかなる場所で投球練習をするときでも、捕手は捕手用ヘルメットとスロートガード付きマスクを着用しなければならない。着用するように審判員から指導された場合は、従わなければならない。
- (3) 場外へのファウルボールは、攻守に関係なくベンチ側のチーム員が処理して、当該球場競技員に手渡すこと。
- (4) 球場内では、ベンチを除きグラウンドコート等を着用しないこと。
但し、特段の事情により、当該球場審判員が認めた場合は、この限りではない。
- (5) 公認指導者は、（公財）日本スポーツ協会発行の認定証・登録証の原本か写しを携帯する。（大会要項に準ずる）
- (6) スポーツマンらしくない言動は厳禁する。言動によっては、退場処分等の罰則を適用する。
また、自チームの応援者からの言動についても、チーム代表者はその責を負うものとする。
- (7) ベンチ内での喫煙は厳禁とする。また、喫煙は施設指定所にてお願いします。
- (8) 荒川総合運動公園は、グラウンド外の芝生区域でのバッティング練習を禁止します。
- (9) 施設内に於て、煙草・ゴミの投げ捨ては行わないこと。
公共施設の利用であることを認識し、ゴミは持ち帰り、施設内の美化に留意しなければならない。
- (10) 試合終了後のグラウンド整備、撤収（片付け）にご協力ください。

以 上

**スピーディな試合進行にご協力をお願いします
ます。**

令和8年4月11日

担当競技員 吉田 忠男